

# 2019年度 外国人児童生徒等教育にかかる(JSL研修会)のお知らせ(終了いたしました)

2019年4月吉日

関係各位

2019年度 東京学芸大学国際教育センター

## 外国人児童生徒等教育に係る研修会(JSL研修会)のお知らせ

平素より大変お世話になっております。

東京学芸大学国際教育センターでは、今年度も、下記の通り日本語を母語としない児童生徒(JSL 児童生徒等)の教育に関わる方々を対象とした研修会を開催いたします。

「日本語／国際学級は担当者の異動がはげしい」といわれます。また、教育委員会管内でもJSL 児童生徒教育に関する必要性には地域差があり、研修実施が困難という声も聞かれます。東京学芸大学国際教育センターでは、こうした熱心な、けれども近くに相談相手のいない外国人児童生徒等教育担当の先生方に「学ぶ場」「つながる場」を提供したいと考え、研修会を実施しております。

本年度の研修の概要、申込用紙を同封させていただきました。あわせて、4月より東京学芸大学国際教育センターホームページ(<http://crie.u-gakugei.ac.jp/>)上でもご覧いただけるように準備しております。学校連絡便、貴管内の学校ポータルサイト等で、関係各所へお知らせいただけましたら、また、先生方のご参加をご支援いただけましたら幸甚です。よろしく願い申し上げます。

### 記

日 程： 第1回 2019年5月11日(土)

第2回 2019年6月22日(土)

第3回 2019年10月5日(土)

時 間： 10:00 ～ 16:30

会 場： 東京学芸大学(小金井市貫井北町4-1-1) 講義棟

※教室は参加者に別途お知らせします。

研修内容： 別紙をご参照ください。

参加申し込み締め切り： 2019 年 5 月 6 日(月)

参加費 : 無料

お問い合わせ:東京学芸大学国際教育センター教務室 Tel 042-329-7717

お申し込み方法: メール([c-event@u-gakugei.ac.jp](mailto:c-event@u-gakugei.ac.jp))またはファックス(042-329-7722)

で、「東京学芸 大学国際教育センター事務室」宛てに申込用紙をお送りください。

お申込み用紙はこちら([2019JSL 申込用紙.docx](#))からダウンロードできます。

お問い合わせ:東京学芸大学国際教育センター教務室 Tel 042-329-7717

なお、プログラムの詳細は国際教育センターホームページで順次ご案内いたします。これまでの研修の様子もホームページでご覧いただけます。

## 2019 年度 JSL研修会:コースと概要

### 1.外国人児童生徒等教育の概要・基礎を学ぶコース(Aコース)

午前中は大学教員らによる講義を通して外国人児童生徒教育に必要な理論や現状の課題を、午後はベテラン担当者による実践を通じた指導方法を学びます。

講義は、文部科学省「外国人児童生徒教育研修マニュアル」の研修項目から特に担当となって日の浅い方たちに必要とされるものを選び、構成されています。午後は事例を通してJSLカリキュラムの基本を学びながら自信をもって指導にあたるようになることを目指します。はじめて外国人児童生徒指導担当になった方はもちろん、もう一度基本を学びなおしたいという方も参加いただけます。

	午前	午後
第 1 回	・外国人児童生徒等教育の現状と課題 ・外国人児童生徒等教育担当者の役割	・日本語教室における指導事例の紹介 ・テーマ別交流会
第 2 回	・日本語指導・授業づくりの考え方 ・日本語指導の実際	・授業づくり① JSL カリキュラムの事例を通して
第 3 回	・児童生徒の実態把握と指導計画 ・多様な日本語指導の実践を知る	・授業づくり② 実践の検討と授業づくりの振り返り

## 2.授業づくり・実践に焦点を当てたコース(Bコース)

このコースでは①の内容をご存知であることを前提に、より実践的な力を高めることを目指します。日本語指導の経験があり、よりよい授業・日本語／国際学級を作りたいと考えている方、地域の中心となることを期待されている方を想定しています。

ペアやグループでの活動を通して、JSLカリキュラムの授業づくりを行います。ご自身の授業を改善することはもちろん、JSLカリキュラムの考え方をどのように周囲に伝えていくか、また、国際学級担当者として校内の一般の先生方に何をどのように伝えていく必要があるかについても検討します。

	午前	午後 授業づくり
第1回	・JSLカリキュラムの考え方  実践事例を通じた理論の復習と確認	・授業づくり①  午前の講義を受けて
第2回	・授業づくり②  指導案を作ろう	
第3回	・授業づくり③  指導案検討会	・授業づくりのまとめ

## 3.管理職、指導主事の方

地域や校内の外国人児童生徒指導を考える時、管理職や指導主事の役割は重要です。参加を希望される方の課題意識に合わせて、上記①②を組み合わせたプログラムを用意します。

### 2019年度

#### 第1回 東京学芸大学国際教育センターJSL研修会

日時:2019年5月11日(土)10:00~16:30

場所:東京学芸大学 講義棟 C棟(C201 全体会会場)、W棟

(受付はC棟1階にて行います)9:30~

#### ◆ プログラム ◆

10:00 開会挨拶 馬場 哲生(東京学芸大学国際教育センター長)

10:05 はじめに 菅原 雅枝(東京学芸大学国際教育センター)

.....

【外国人児童生徒教育を学ぼう①】 進行:松井智子(国際教育センター)

10:30 講義1 外国人児童生徒教育の現状と課題 吉谷武志(国際教育センター)

11:10 講義2 年少者への日本語教育と指導担当者の役割 菅原雅枝(国際教育センター)

13:00 事例紹介:日本語教室での指導について

進行:市川昭彦(大泉町立北小学校)、濱村久美(江戸川区立葛西小学校)

- ・日本語指導 小川郁子(都立高校非常勤講師)
- ・教科指導 伊藤敦子(小牧市立大城小学校)
- ・学級経営 横溝 亮(横浜市立並木第一小学校)

15:00 テーマ別交流会

国際学級の経営、特別の教育課程(DLA、個別指導計画)、日本語指導、教科指導、

中高生への指導、管理職・指導主事コース

【実践力を高めよう①】 進行:見世千賀子(国際教育センター)

10:30 事例紹介:JSL カリキュラムの授業づくり

今澤 悌(甲府市立大国小学校)、大菅佐妃子(京都市教育委員会)

13:00 分科会:授業づくり体験

.....

16:00 全体会

16:30 閉会

12:00~13:00

昼食休憩 (昼食、飲み物持参)

※今回会場が、例年と異なりますのでご注意ください。

## 第40回 海外子女教育セミナー(終了しました)

主催:東京学芸大学国際教育センター

第40回 海外子女教育セミナー

「海外子女教育－時代と共に変わるもの変わらないもの」

日 時:2019年5月19日(日) 10:00～16:20

会 場:東京学芸大学 国際教育センター合同棟 1F 大教室

■■■プログラム■■■

9:30 開場、受付開始

○午前の部 司会:菅原雅枝

10:00～10:10 開会の挨拶 東京学芸大学国際教育センター長 馬場哲生

10:10～11:00 講演「海外子女教育の現状と課題」

山本 健司(文部科学省初等中等教育局 国際教育課海外子女教育専門官)

11:00～11:50 講義

佐藤 郡衛(明治大学国際日本学部 特任教授)

11:55～12:55 昼休み (当日、食堂は閉まっております、昼食はご持参ください)

○午後の部 司会:榊原知美

13:00～15:00 派遣教員による海外での実践報告

濱野 貴之 茨城県筑西市立関城東小学校 教諭・前アグアスカリエンテス日本人学校教諭

小澤 昇 新潟県刈羽郡刈羽村立刈羽中学校教諭・前カイロ日本人学校教諭

神谷 佳宏 奈良県奈良市立西大寺北小学校校長・前在ロシア日本国大使館附属モスクワ日本人学校 教頭

嶽 里永子 東京学芸大学附属国際中等教育学校教諭 ・前泰日協会学校バンコク日本人学校教諭

15:00～15:15 休憩

15:15～16:15 パネルトーク「海外での生活をめぐって」

コーディネータ:松井智子(国際教育センター教授)

16:15～16:20 閉会の挨拶 吉谷 武志(国際教育センター教授)

【参加お申し込み方法】

申し込みは、氏名、ご所属、返信用のメールアドレス、もしくは FAX 番号を明記の上、下記宛にメールか FAX にてお申し込みください。

件名「海外子女教育セミナー申し込み」とし、本文に氏名・所属をご記入ください。

- \* ご質問、ご不明な点につきましても、下記までお問い合わせください。
- \* 詳細は、随時ホームページに掲載します。
- \* **お席に余裕がございます。当日でもご参加頂けます。**
- \* **当日は日曜日のため、正門の通用口からお入りください。守衛での記帳は必要ありません。**  
**東門、北門、北バイク門、は閉まっておりますのでご注意ください。**  
**下記のアクセスの案内を開き最下段のキャンパスマップをご覧ください(合同棟は 21 番です)**
- \* **食堂もお休みなので、昼食はご持参ください。**

【お問い合わせ先】

東京学芸大学国際教育センター

Email [c-event@u-gakugei.ac.jp](mailto:c-event@u-gakugei.ac.jp) FAX 042-329-7722

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 TEL 042-329-7717、7727

[アクセスはこちらをご覧ください。](#)

## 2019 年度 第 2 回 JSL 研修(終了いたしました)

2019 年度

第 2 回 東京学芸大学国際教育センターJSL研修会

日時:2019 年 6 月 22 日(土)10:00~16:30

場所:東京学芸大学 N 講義棟 N410

◆ プログラム ◆

管理職・指導主事コース	A コース	B コース
総合司会:松井智子(国際教育センター)		

10:00	開会挨拶	馬場 哲生(東京学芸大学国際教育センター長)
10:05	はじめに	菅原 雅枝(東京学芸大学国際教育センター)
@N410	10:20 講義と事例紹介	@N401
	日本語指導プログラムと JSL カリキュラムの考え方	進行:見世千賀子 (国際教育センター)
	菅原雅枝(国際教育センター)	10:20 ワークショップ①:
	日本語指導事例紹介	社会科の授業づくり
	小川郁子(都立高校非常勤講師)	今澤 悌(甲府市立大國小学校)
	濱村久美(江戸川区立葛西小学校)	大菅佐妃子(京都市教育委員会)
12:00~13:00 昼食休憩		
13:00	JSL カリキュラムの授業づくり:事例紹介	13:00 ワークショップ②:
	進行:榊原知美(国際教育センター)	国語科の授業づくり
	伊藤敦子(小牧市立大城小学校)	今澤 悌(甲府市立大國小学校)
	小川郁子(都立高校非常勤講師)	大菅佐妃子(京都市教育委員会)
	横溝 亮(横浜市立並木第一小学校)	
@N407	@N301、302、304、306、402	15:00 まとめ
進行:吉谷武志 (国際教育センター)	14:00 ワークショップ	
14:00 意見交換	市川昭彦(大泉町立北小学校)	
	伊藤敦子(小牧市立大城小学校)	
	小川郁子(都立高校非常勤講師)	
	濱村久美(江戸川区立葛西小学校)	
	横溝亮(横浜市立並木第一小学校)	

	@N410	
	15:45 Aコース全体会	
16:00 全体会		
16:30 閉会		

# LGBT 学校教育支援研修(終了いたしました)

## 第5回 LGBT 学校教育支援研修

### 第5回国際教育センターLGBT(Q)教育・支援研修

#### 学校のセクシュアル・マイノリティ教育,支援

#### —誰もがありのままの自分でいられる学校のために—

#### 教職員を対象とする講座のご案内(無料)

各種の調査によると、LGBTQ に属する人、子どもは、今日おおよそ5~7%いることが知られています。しかしながら、現在の学校や社会では、その存在を知り、理解し、学校や社会の構成員としてともに生きるにふさわしい環境が用意されているとは言えない状況にあるようです。とりわけ学校においては、児童生徒に当事者がいることが知られている場合であっても、教師はどのように対処し、受け入れ、周囲の子どもを含む学級や学校でどのように指導すれば良いのか、明確な方針を持たず、困難を抱えているのが現状です。

文部科学省も実態調査(「学校における性同一性障害にかかる対応に関する状況調査について」平成26年6月13日公表)を実施し、学校や教育の場におけるガイドラインを示し(「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」平成27年4月30日)、さらに、教職員に向けて「性同一性障害や性的志向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について(教職員向け)」(平成28年4月1日)を示し、この課題への対処を促しています。

本研修は、平成27年度より本センターで企画、実施している研修です。主として学校の教師や教育委員会関係者等を対象に、セクシュアル・マイノリティ(LGBTQ)の児童生徒、その保護者への学校における支援、教育、受け入れ等について、基礎知識の習得、学校、学級の環境作りの講義、当事者との出会い体験などを通じて、セクシュアル・マイノリティ(LGBTQ)に属する児童生徒が差別やいじめの対象とならないような学校作り(ユニバーサルデザインの学校づくり)に資することをめざしているものです。

参加ご希望の方は、以下の方法で事前にお申し込みください。

#### 申し込み先:

お申し込みは当センター にメール([c-event@u-gakugei.ac.jp](mailto:c-event@u-gakugei.ac.jp))にて、

イベント名、お名前、所属先、ご連絡先(アドレス)をご明記の上、お申込みください。

※本研修は、現職教師(教育委員会職員等を含む)を対象とする研修です。

※学生、一般の方のお申し込みにあたっては事前にご相談ください。

問い合わせ:国際教育センター 042-329-7717、又は 7726

※誠に申し訳ございませんが、ご予約のない当日のご参加はご遠慮ください。

## 第5回 国際教育センターLGBT(Q)教育・支援研修

### 学校のセクシュアル・マイノリティ教育・支援

—誰もがありのままの自分でいられる学校のために—

主 催:東京学芸大学国際教育センター

後 援:八王子市教育委員会、小金井市教育委員会、国分寺市教育委員会

開催協力:共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ

支援全国ネットワーク(共生ネット)

日 時:2019年7月6日(土)9時30分~17時

場 所:東京学芸大学国際教育センター・合同棟大教室

### 【プログラム】

9:30 受け付け

9:50 開 会

総合司会 見世千賀子(国際教育センター 准教授)

開会挨拶 馬場哲生 (国際教育センター センター長)

研修内容紹介 吉谷武志 (国際教育センター 教授)

10:00 基礎講座1

10:00 ①学校におけるセクシュアル・マイノリティの現状 吉谷武志(国際教育センター)10:20 ②セクシュアル・マイノリティとは(LGBTQ 理解のために) 原ミナ汰(共生ネット)

③学校で出会うセクシュアル・マイノリティ「問題」 大賀一樹(共生ネット)

11:40 ④グループワーク:こんな時どうするー良くある疑問に向き合ってみようー

12:00 休憩

13:00 基礎講座2

13:00 ⑤パネルトークーLGBTQに関する疑問に答えよう！ー 原ミナ汰(共生ネット)

大賀一樹(共生ネット)

吉谷武志(国際教育センター)

13:50 会場整備(休憩)

14:00 グループワーク

14:00 ⑥Q&A ここがわからないーセクシュアル・マイノリティに関わる対話(外部講師)

セッション: 1)14:00~14:30 2)14:35~15:05 3) 15:10~15:40

15:40 休憩

15:50 ⑦ GW:こんな時どうするー良くある疑問に向き合ってみよう2ー

16:20 交流・総括

17:00 閉会

※定員 50 名。参加費無料

## 第3回 JSL 研修(終了いたしました)

2019 年度

第3回 東京学芸大学国際教育センターJSL研修会

日時:2019年10月5日(土)10:00~16:30

場所:東京学芸大学 S 講義棟 S103

### ◆ プログラム ◆

全体会進行 松井 智子(国際教育センター)

10:00 開会挨拶 馬場 哲生(東京学芸大学国際教育センター長)

10:05 はじめに 菅原 雅枝(東京学芸大学国際教育センター)

.....

● Aコース 進行 松井智子(国際教育センター)

10:25 講義 JSLカリキュラム授業づくりの視点と指導計画

菅原雅枝(国際教育センター)

11:15 JSLカリキュラムの授業づくり② 課題の検討とまとめ

小学校2年・生活 伊藤敦子(小牧市立大城小学校) @S107

小学校3年・算数 濱村久美(江戸川区立葛西小学校) @S106

小学校5年・算数 市川昭彦(大泉町立北小学校) @S105

小学校5年・社会 横溝 亮(横浜市立並木第一小学校)@S101

中学校1年・理科 小川郁子(都立高校非常勤講師) @S103

● Bコース 進行 見世千賀子(国際教育センター)

10:25 ポスターセッション 全体会@S201 ポスター発表@201, 202

大菅佐妃子(京都市教育委員会)

築樋 博子(豊橋市教育委員会)

● 管理職コース ファシリテーター 吉谷武志(国際教育センター)

10:25 講義 JSLカリキュラム授業づくりの視点と指導計画(Aコースと合同)

菅原雅枝(国際教育センター)

11:15 ディスカッション 次年度の研修・体制について考えよう @S207

昼食 12:30~13:30

.....

16:00 全体会

16:30 閉会

# 第9回 多文化共生フォーラム(終了いたしました)

## 第9回 多文化共生フォーラム

周縁から日本の学校文化を捉える

— 文化心理学者がみた日本の学校 —

日本の学校をめぐるのは、近年、これまで伝統的に行ってきた取り組みやその背後にある価値観などを見直す試みや提言が盛んになってきています。多文化化など学校をめぐる状況が大きく変化しつつある今日、日本の学校がもつプラスの側面をより充実させていくためにも、このような見直しは不可欠なものでしょう。本フォーラムでは、文化心理学の視点から、日本の学校文化のもつ特質について考えます。今回は特に、部活、アート、スクールカウンセリングなど、授業以外の側面に着目し、そこから浮かび上がる日本の学校の姿や課題・可能性について検討します。このように日本の学校を文化的に相対化してとらえ直すことは、文化心理学的にも興味深い試みであると同時に、在外教育施設に派遣される教員や、日本で帰国児童生徒教育、外国人児童生徒教育に携わる教員の方々にとっても有益な視点を提供できるものと考えます。学校における多文化共生にご関心をお持ちの多くの方の参加をお待ちしています。

日時： 2020年2月1日(土)13:00～17:00(受付12:30～)

会場： 東京学芸大学 S 講義棟 1階 S103(東京都小金井市貫井北町4-1-1)

申し込み・お問い合わせ先： 東京学芸大学国際教育センター

TEL 042-329-7717, 7727 FAX 042-329-7722

✉ [c-event@u-gakugei.ac.jp](mailto:c-event@u-gakugei.ac.jp)

定員： 80名

申し込み締切： 2020年1月29日(水)

参加費： 無料

\*本フォーラムの最新情報はこの東京学芸大学国際教育センターホームページで随時アップいたします。

URL:<http://crie.u-gakugei.ac.jp/>

[多文化共生フォーラムポスター.pdf](#)

<プログラム>

13:00～13:10 開会の辞 馬場哲生(東京学芸大学国際教育センター長)

13:10～13:25 趣旨説明 榊原知美(東京学芸大学国際教育センター・准教授)

話題提供

13:25～14:05 「部活(BUKATSU)に凝縮されている日本文化」

尾見 康博(山梨大学大学院総合研究部教育学域・教授)

14:05～14:45 「言語的文化的多様性を持つ子どもたちの発達支援にむけて:そのディスコースの検討とアートに基づいたリテラシー学習活動の紹介」

石黒 広昭(立教大学文学部・教授)

14:45～15:25 「誰がなにに「適応」するのか?:学校心理臨床の視点から」

松嶋 秀明(滋賀県立大学人間文化学部・教授)

— 休憩 —

15:35～16:55 パネルディスカッション

コメント① 「グローバル教師の育成の視点から」

見世 千賀子(東京学芸大学国際教育センター・准教授)

コメント② 「多文化環境にいる心理学者の視点から」

呉 宣児(共愛学園前橋国際大学・教授)

16:55～17:00 閉会の辞

### 【報告の概要】

言語的文化的多様性を持つ子どもたちの発達支援にむけて:そのディスコースの検討とアートに基づいたリテラシー学習活動の紹介

石黒広昭 (立教大学文学部)

報道によれば、政府は「移民政策」という表現を未だに忌避し続けているそうだが、日本が他国同様多種多様な「移民問題」を抱えているのは事実である。ところが、教育の問題は学齢期の子がいない人には見えにくいこともあり、必ずしも市民の関心を引き起こしてはいないようである。これは学校教育ですら例外ではない。1990年代には、日本語教育を専門としない教師による取り出し授業が行われたり、教材としてただ単に配当学年より下のプリントが配布されたりすることは珍しいことではなかった。残念ながら未だ改善が進んでいるという声はほとんど聞こえてこない。なぜこのようなことになっているのか。何かできることはないのだろうか。本講演では、まず言語的文化的多様性を持つ子どもた

ちがどのように語られているのか、その主要なディスコースを吟味する。次に、私がこしばらく取り組んでいるアートに基づいたリテラシー学習活動を紹介する。そこでは、学習者は誰でもが自らの知的好奇心に導かれて学習するアーティストとして扱われる。アーティスト的心構えは、解放的で、遊び心があり、批判性を持ち、探究を求める。これらの実践では、学習者に新たな知識を注入しようとはしない。既に自らが日常生活で身につけている資源を再媒介し、学業知識との接続を自発的に促進することを目指す。言語的文化的に多様な学習者の側から豊かな学習環境を構築するにはどうしたらよいのか。その議論のためのアイデアをいくつか提供したい。

部活(BUKATSU)に凝縮されている日本文化

尾見康博(山梨大学)

部活(BUKATSU)は、たんなる課外活動ではない。たとえば、課外活動の指導時間の国際比較調査(国立教育政策研究所, 2014)によると、日本が一週間あたり平均 7.7 時間で最長であるが、これをもって日本の教師が働き過ぎとするのは過小評価となる。なぜなら、この調査では長期休暇の指導時間が考慮されていないからである。日本の部活では、夏休みは休みというよりもむしろ強化期間になるが、諸外国では夏休みは文字通り休みなのである。このように、部活をたんなる課外活動としてとらえるとその本質を見失うことになりうるのである。

そもそも、事実上、教師が無償で顧問を担当することや義務づけられていたり、生徒が入部を義務づけられていたりすることや、顧問が担当している競技などの素人であるにもかかわらず指導に関する研修がほとんどないことは、夏休みを休みにしないことと同様、労働面でも教育面でも大きな(人権)問題を孕んでいる。

また、部活に特有のさまざまな価値観は、特定の生徒を精神的に追い詰めたり、身体的に危険な状態に追い込んだりすることすらある(尾見, 2019)。そしてその価値観は、他方でひたむきなプレーや最後まであきらめずに頑張ることをよしとすること、あるいは美化することなどと通底しており、参加している部員や顧問だけでなく、保護者や広く日本社会に受け入れられているとも言える。

部活が日本に独自のしくみであり、独自であることを私たちが自覚しにくいことから、部活は日本文化が色濃く映し出された好例とみなすことができるかもしれない。

誰がなにに「適応」するのか? : スクールカウンセラーからの見え

松嶋秀明(滋賀県立大学人間文化学部)

スクールカウンセラーは、子どもの不登校や非行、いじめといったことに対応することが多い。これらは、しばしば生徒個人の「不適応」であるとみなされやすく、なんとか解決していくこと(適応させること)が目指されることが多くあった。ここでの子どもたちは、いつてみれば学校の論理からはずれた、(学校にとって)「問題」の子どもたちである。しかし、こうした子どもたちは、実は、そのような学校の論理とはかけはなれたところで、固有の「問題」をかかえた子どもたちでもある。子どもの「問題」なのか、それとも「問題」の子どもなのか、「問題」に内在するこうした二面性を前にして、多くの大人は、両者をごちゃ

混ぜにとらえ行動してしまう。

単に、学校に適応させるにはどうすればいいかということを超えて、子どもがどのような「問題」につきあっており、どのようにその「問題」に困らされているのかを大人たちが知っていくことが求められる。

今回の報告ではいくつかの反社会的、非社会的な行動をする生徒に対して、周囲の大人たちがどのように関わり、よい変化をうみだしているのかをみていく。そのことは、日本の学校が当たり前にもっている「問題」「適応」についてのイメージを逆照射することにもなるかもしれない。

## 第 12 回 国際教育センターフォーラム(開催中止になりました)

**2月29日(土)に予定しておりました「第12回国際教育センターフォーラム」は、新型コロナウイルス感染拡大の現状に鑑み、大変残念ですが、中止することとなりました。**

これまで、ご参加くださる皆様に感染拡大予防の措置をとっていただくことでフォーラムは開催するという方向で考えてまいりましたが、次の2点から、国際教育センターとしてイベント中止の決断をいたしました。

- ・ 2月24日の専門家会議、2月25日の政府の対策指針で感染のさらなる拡大を防ぐにあたって「この1~2週間が重要」との見解が示されたこと。
- ・ 日常的に多くの子どもたちに接する方が全国から集まるというフォーラムの場が、万が一にも子どもたちに感染を広げる結果をもたらしてはならないと考えたこと。

何卒ご理解くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、直近のイベントのことですので、今回フォーラムで取り上げる予定であった内容・資料の提供等につきましては、これから改めて検討の上お知らせすることとし、まずは中止のご連絡をさせていただきます。

参加申し込みをいただいていた皆様には、大変申し訳ございません。重ねてお詫び申し上げます。